博士課程学位申請リサイタル　博士（後期）課程声楽領域　渡邉寛智（バス）
平成２９年１１月１４日（火）京都市芸術大学講堂　１８時３０分開演

Ⅰ部
セルゲイ・ラフマニノフ　Sergei Rachmaninov（1873-1943）
息がつけるでしょう　Мы отдохнем
聖なる僧院の門のかたわらに　У Врат Обители Святой
ラザロの復活　Воскрешение Лазаря
ひそやかな夜のしじまの中で　В молчаньи ночи тайной
彼女は真昼のように美しい　Ona, kak polden', khorosha

歌劇《アレコ》より
「不思議な歌の力で」
Рассказ старого цыгана
"Алеко"
～　休憩　１５分　～
Ⅱ部
ジュゼッペ・ヴェルディ Giuseppe Verdi（1813−1901）
墓に近づかないでおくれ　Non t'accostare all'urna
エリーザよ疲れた老人は死ぬ　More, Elisa, lo stanco poeta
寂しい部屋で　In solitaria stanza

哀れな男　Il poveretto
誘惑　La seduzione
詩人の祈り　La preghiera del poeta

歌劇《ドン・カルロ》より
「一人寂しく眠ろう」
Ella giammai m'amo “Don Carlo”

歌劇《シモン・ボッカネグラ》より
「悲しい胸の想いは」
Il lacerato spirit “Simon Boccanegra”

バス：渡邉寛智　　ピアノ：渡邉芳恵

《曲目解説》

Ⅰ部

セルゲイ・ラフマニノフ　Sergei Rachmaninov（1873-1943）

１．　息がつけるでしょう　Мы отдохнем

　チェーホフの小説「ワーニャおじさん」第４幕に現れる台詞を用いた作品。ソーニャは、つらい想いを抱えるワーニャに、「息がつけるようになれば、すべての苦しみは慈悲によって包まれ、心地よく息がつけるようになるわ」と語りかけるのである。

２．　聖なる僧院の門のかたわらに　У Врат Обители Святой

　詩はミハイル・レールモントフ。ラフマニノフが若干 17 歳で作曲した作品。宗教色が強い作品ではあるが、失恋の歌である。楽曲の終わりにスケールの大きな後奏が付けられているのはラフマニノフ歌曲の特徴のひとつと言える。

３.ラザロの復活　Воскрешение Лазаря

　ラフマニノフ３９歳のときの作品。詩はA．ホミャコーフである。ロシアが生んだ世界的な名バス歌手シャリアピンに献呈された作品。「死する魂が蘇り、立ち上がって世に光を与えよ！」という内容の歌詞を借りて、ラフマニノフはソ連の国家体制を暗に批判していたと考えられる。

４.ひそやかな夜のしじまの中で　В молчаньи ночи тайной

　この作品もまたラフマニノフが 17 歳のときに作曲された。詩はA.フェート。静かな真夜中に、恋人に対する想いを描いた作品。うつろな想いの中にも美しさを持つ作品である。

５.彼女は真昼のように美しい　Ona, kak polden', khorosha

　詩はN.ミーンスキイ。ラフマニノフが 23 歳のときの作品。「真昼のように美しく、真夜中よりもなぞめいている」と思いを寄せる人に対する想いを歌う作品である。

６.歌劇《アレコ》より「不思議な歌の力で」

Рассказ старого цыгана　"Алеко"

　1892 年にモスクワ音楽院の卒業作品として作曲され、初演された作品。翌年にはチャイコフスキーのはたらきかけによってボリショイ劇場でも上演された。老ジプシーはアレコに昔話を語る。「マリウーラという女性を愛するも、幼い娘を残して彼女は去ってしまった。以来、女性たちに対する私の目は閉ざされてしまった」と嘆くのである。

Ⅱ部
１.墓に近づかないでおくれ
２.エリーザよ、疲れた老人は死ぬ
３.寂しい部屋で
　1838 年にカンティ社より発表された「６つのロマンツァ」の中にある３曲。６曲の作詞は複数の詩人によるもの。それぞれの曲に関連性はなく、ヴェルディが作曲した小作品を出版社がまとめて「６つのロマンツァ」として出版した。第１曲の「墓に近づかないでおくれ」と第３曲の「寂しい部屋で」は、当時人気を博していたヤーコポ・ヴィットレッリの詩である。どちらの曲もオペラ・アリアを思わせるほど劇的な作品である。「墓に近づかないでおくれ」は、ベートーヴェンの「この暗い墓の中で」を思わす作品であり、「寂しい部屋で」に現れる「助けてください、憐れみ深い神よ」の半音階による旋律は、《トロヴァトーレ》のレオノーラのアリアに現れる。第 2 曲の「エリーザよ、疲れた老人は死ぬ」は、トンマーゾ・ビアンキによる詩。
４.哀れな男
　詩はマンフレード・マッジョーニ。哀れな男とは、道ばたで道行く人にお金を無心する男のこと。若い頃は国のために戦う勇敢な戦士であったが、時が経ち老いた今は食べるものにも苦労している状況を訴えている。ヴェルディは男の悲哀をどこかコミカルに描いており、男に対する優しい眼差しを音楽から受け取ることができる。《マクベス》と同じく 1847 年の作品である。
５.誘惑
　詩はルイージ・パレストラで 1839 年に作曲された歌曲。1839 年と言えばヴェルディが第１作目のオペラ『オベルト、サン・ボニファーチョ伯爵』を作曲していた頃の作品である。とある美しい娘が不実な男に心奪われ、不幸にも死に行く詩の内容である。当時、ヨーロッパ各地で出版されたが、出版社によって曲のタイトルが「裏切り」、「死んだ女」に変更された。
６.ヴェルディの友人であり、この曲の詩を書いた詩人のニコラ・ソーレに献呈された作品。1858 年に作曲された短い歌曲である。当時は出版されることはなかったが、1941 年ソーレの親族によって公開された。
７.歌劇『ドン・カルロ』より「一人寂しく眠ろう」
　1867 年にパリのオペラ座の依頼によって初演された作品。初演版はフランス語で上演されたが、1884 年にスカラ座で上演するために 1 幕、バレエ音楽などカットした改訂が行われた。4 幕版での上演が主流であったが、近年では 1886 年に 1 幕を復活させた 5 幕版での上演が主流となっている。このアリアは、5 幕版において第 4 幕冒頭で国王フィリッポ 2 世によって歌われる。息子であるドン・カルロの恋人を奪い妻としたエリザベッタからも愛されず、息子との関係も

うまく行かない王はその苦しい胸の内を歌う。

８.歌劇『シモン・ボッカネグラ』より「悲しい胸の想いは」

『シモン・ボッカネグラ』は 1857 年、ヴェルディが 43 歳の時に作曲したオペラである。伝統的なオペラ作曲法からの脱却を試み、音楽とドラマの融合が深まった意欲的な作品である。今日では初演から 24 年後、A.ボーイトと共に改訂を行った改訂版での上演で知られている。「悲しい胸の想いは」は、このオペラのプロローグで歌われるアリア。貴族であるフィエスコは愛する娘マリアを失い、悲しみにくれる心情を歌う。今日は、アリア部分の後半が変更された改訂版で歌う。